

通常学級に在籍する“気になる子ども”に対する体育授業の在り方

渡部拓（群馬大学）

1. 目的

本研究では、先行研究を検討し、気になる子どもに対する具体的な指導法の抽出を行うとともに、気になる子どもの指導に関する質問紙調査を行うことで、現状を明らかにする。これらによって、気になる子どもが在籍する通常学級における、体育授業の在り方を考えていくことを目的とする。

2. 研究方法

- 1) 文献調査
- 2) 質問紙調査

対象：群馬県内の3校の小学校教師

内容：気になる子どもに対する指導経験や体育授業における工夫等

期日：2017年11月～12月

3. 結果と考察

1) 文献調査

論文検索サイトCiNiiで「気になる子ども」等で検索した先行研究52件の分類を行った。そのうち、具体的な指導法が示されていた先行研究(12件)から以下の指導法を抽出した(表1)。

(表1) 先行研究から抽出した指導法

	先行研究に提示されていた指導法
個別支援	個人内目標の設定
	手本にする児童の明確化
	特別ルール作成
	学習支援員の利用
	スモールステップでの指導
共同学習	活動場所の明確化
	タイマーの利用
	視覚教材の利用
	グループ編成の工夫
	本時の流れを掲示

「スモールステップでの指導」など気になる子どもが、指導内容を段階的に習得できるような工夫や、「グループ編成の配慮」など気になる子どもが、安心して取り組めるような工夫が示されていた。

2) 質問紙調査

男性14人、女性21人の35人から回答を得た。そのうち、通常学級において気になる子どもを指導したことがある教師は29人(82.9%)であり、通常学級に多くの気になる子どもが在籍すると

考えられる。

また、体育授業の工夫についての自由記述から以下の指導法を見いだすことができた(表2)。

(表2) 質問紙調査から得られた指導法

	気になる子どもに対する体育授業の工夫
個別支援	学習支援員の利用
	スモールステップでの指導
	個別の指示
	別メニューを用意
共同学習	視覚教材の利用
	グループ編成の配慮
	認め合う励まし合う時間の設定
	授業前に確認の時間を設定
	本時の流れを掲示

現場の教師は気になる子どもに対して様々な指導法を実践し、体育授業の目標を達成しようとしていることが分かった。

4. 結論

本研究によって、気になる子どもは、多くの通常学級に在籍しており、そのような子どもへの指導が全ての教師に関わる課題であることが分かった。

また、学校現場において実践されていて、先行研究からも抽出できた指導法は、①スモールステップでの指導、②学習支援員の利用、③視覚教材の利用④グループ編成の配慮、⑤本時の流れを掲示の5つであった。一方で、質問紙調査の回答にはなかったが、先行研究の検討から「個人内目標の設定」「タイマーの利用」などの指導法が抽出できた。これらの指導法は、様々な特性を持つ気になる子どもへの指導の参考になると考える。

5. 主な参考文献

- 1) 文部科学省 特別支援教育について

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/002.htm (参照日:H. 30, 1. 30)

- 2) 鈴木香・佐藤慎二(2017) 全校で作成する「授業スタンダード」を目指して一子どもの声と教師の好事例に基づくユニバーサルな授業づくりー, 植草学園短期大学研究紀要, 第18号, pp. 47-62,